

再エネ研究活用議論

5日間 600人参加見込み

長崎で開会セレモニー

再生可能エネルギーによる環境とデジタル技術の融合や再エネを含む電力の活用技術を主要テーマに議論する、第13回再生可能エネルギー研究応用国際会議（ICREERA2024）の開会セレモニーが11日、長崎市内であった。9～13日の5日間、40を超える国・地域の大学・企業の研究者や技術者ら約600人が参加する見込み。

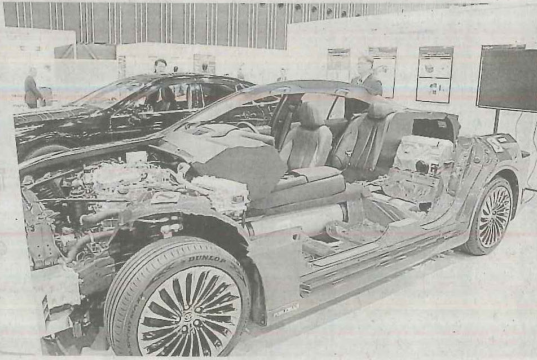
再エネ研究に携わる約30カ国の93人で構成する国際組織「IJREFR」が主催。長崎総合科学大共催。同市での開催は2012年の第1回以来12年ぶり。9、10両日は講義形式で最新のトピックスについて講演。11～13日は、「カー

ボンニユートラル社会の実現に貢献するパワーエレクトロニクス」などをテーマに基調講演や研究発表がある。会場内には、トヨタの水素エンジン車など再エネ分野を中心に国内外の企業約30社が出展している。開会セレモニーには大石賢吾知事や鈴木史朗市長、九州電力の瓜生道明会長が来賓として出席。実行委員長黒川不二雄・長崎総科大学長は「脱炭素化や再エネのトピックスは世界にとって、より重要になっていく。長崎に集まり、有意義で活発な議論が交わされることを大望うれしく思う」とあいさつした。

県内の高校生は無料で入場できる。（黒川裕之）



再生可能エネルギー研究に携わる国内外の研究者らが参加した国際会議 ―長崎市尾上町、出島メッセ長崎



国際会議に合わせ、会場内に展示された水素エンジン車

―長崎市尾上町、出島メッセ長崎